

安芸太田 山と森

安芸太田の90%は、森に覆われています。江戸時代（1603年-1868年）には、森はこの地域の伝統的なたたら製鉄に使われる木炭を作るための木材を提供し、現在ではアウトドアの冒険を楽しめる数多くの機会を作り出しています。訪れる人の多くは、恐羅漢山や深入山、天上山、龍頭峡にも向かうものの、三段峡は、この地域の豊かな自然を直に体験できる安芸太田の最も人気の目的地となっており、これらの場所はどれもそれぞれ個性豊かな魅力を持っています。安芸太田は、原生林や冬には雪で覆われた丘、白く泡立った水の川などを含む極めて多様な自然風土に恵まれています。

全長16キロの三段峡は、太田川の支流の柴木川に沿って曲がりながら進んで行きます。ハイカーは、三段峡正面口から約50分の場所にある黒淵に向かって歩きながら、または、ボートでしかアクセスできない隠れた二段滝などの滝を巡ることで、峡谷の美しさを体験することができます。

海拔1,346メートルの恐羅漢山は、広島県の最高峰です。12月から3月の雪は、スキーマーやスノーボーダーを引き付け、その一方で

アウトドアのファンは4月から11月にかけてキャンプやジップラインをしに山へ向かいます。草の多い深入山の1,153メートルの斜面は、山焼きと呼ばれる慣習で1749年以降毎年4月に焼き払われており、夏には植物豊かなのどかな風景を作り出しています。973メートルの高さがある天上山には、引き明けの森があり、樹齢最大400年の木々がある事実上手つかずの森となっています。